

30 15 世紀の東山口の状況…残された痕跡から知る戦の歴史

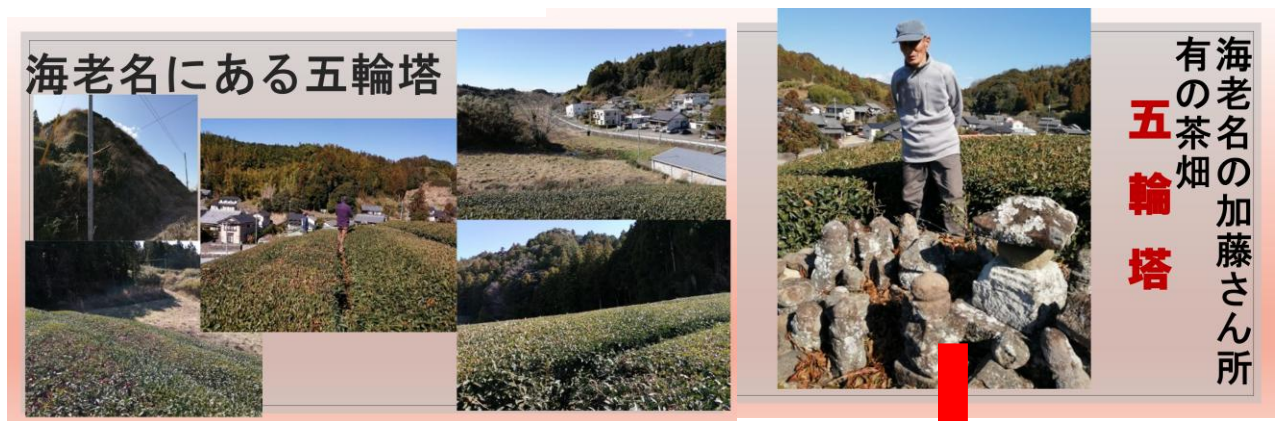
筆 者 服部 光子

1. はじめに

東山口には海老名に五輪塔が残っていたり、池下の鞍骨池に纏わる話が残ったりしている。これらは15世紀頃の事だとされている。残されたものについて文献をもとにその時代背景を探り、その歴史的な位置づけをしてみたいと思う。

2. 東山口に残る15世紀の歴史の痕跡とそれを裏付ける文書

(1) 海老名に残る五輪塔



(2) 鞍骨池（池下）



(3) 牛頭にある堀越入道の祠

↓ この祠の手前には山崎家の長屋門があったという



毎年、地区民がお祀りしている



↓ 堀越入道

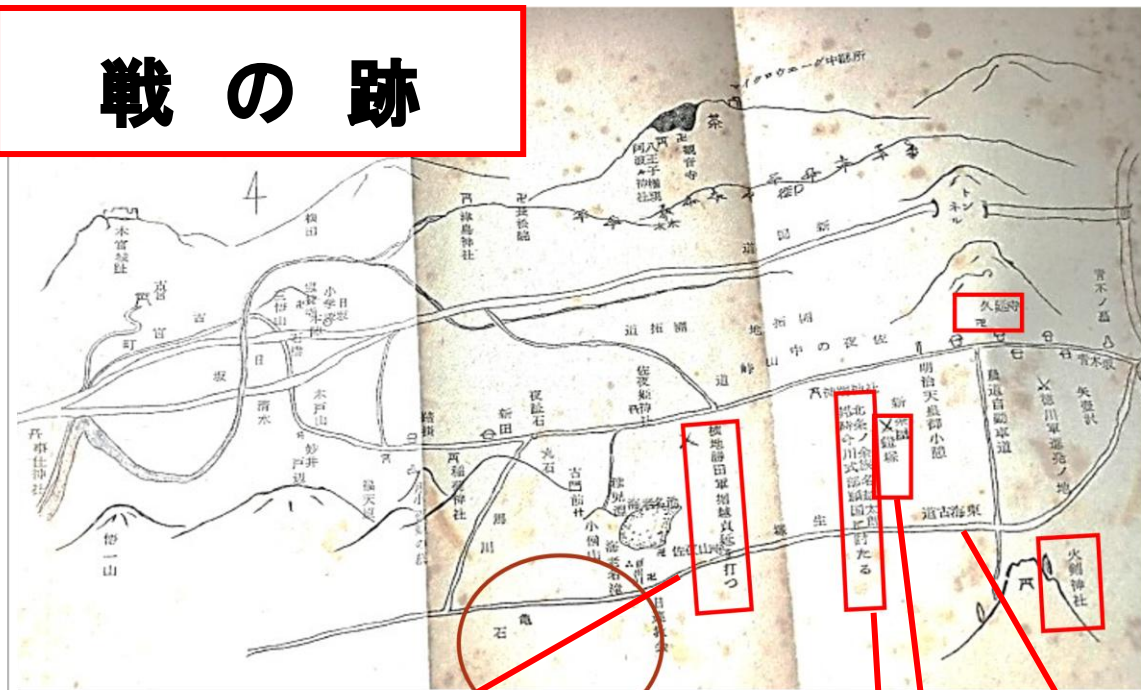


格子の中を覗くと庚申様、淡ヶ嶽の縁者の隣に「堀越様」とある

(4) それぞれの位置関係

※年代に違い	応仁元年 (1467) 今川 (堀越) 貞延軍と西軍・横地軍の合戦他 文明 7 年 (1475) 今川の一部・堀越陸奥守と横地、勝間田軍との合戦
--------	---

戦の跡



地図は

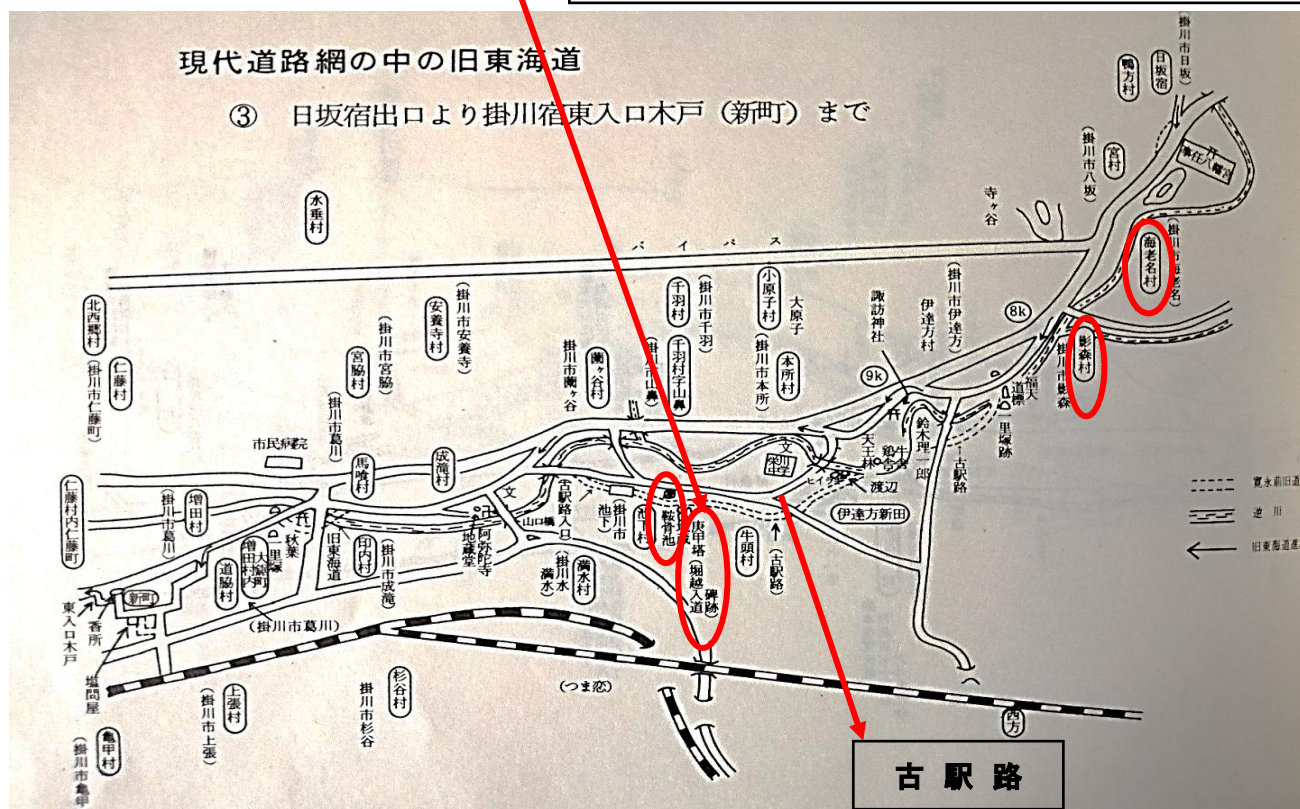
横地勝間田軍 堀越貞延を討つ

残された戦の痕跡

鎧塚

古法上坐

北条ノ余族名越太郎邦時、今川式部頼国に討たる





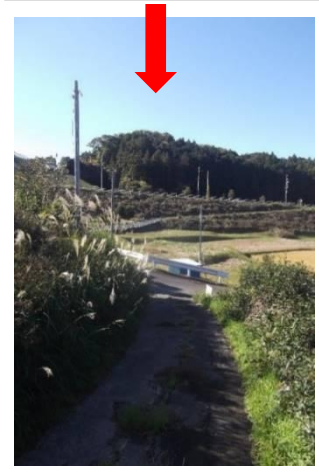
戦いに関わる関係地図

一四六七年又は一四七五年

堀越入道が露営し、死後、入道を祀ったとされる庄屋・山崎彦右衛門宅周辺



地図の東海古道とは鎌倉古道のことか？ この道を武将たちが通ったのだろう



鞍骨池



(4) 東山口関連歴史年表

出典：掛川市年表、駿河伊達家文書、諏訪神社由来、岡本春一氏著書、慶雲寺文書、山崎保寿氏著「直虎の悲願」

1333 年（元弘 3）今川範国遠江守護職となる。北条氏滅亡。

1335 年（建武 2）足利尊氏軍、北条時行軍と佐夜の中山で戦う。

今川範国、名越太郎邦時を佐夜中山で討ち取る。足利尊氏軍、弟直義と佐夜の中山で戦う

1350 年（正平 5）駿河の南朝滅す。

1351 年（観応 2、正平 6）足利尊氏、足利直義追討のため懸川に到着。

横地長則・勝間田入道軍参戦。

1352 年（正平 7）足利尊氏、今川範国の子・範氏を遠江守護職に任命する。

1400 年（応永 7）今川泰範遠江守護職となる。足利義満、上杉憲定に足利氏満と結託した今川貞世を討たす。貞世降伏、山名の堀越に蟄居。

1407 年（応永 14）佐野郡本所（東山口）薬師堂に某氏鰐口を奉納。大尾山顕光寺に鰐口奉納

1409 年（応永 16）今川泰範死亡。遠江守護は斯波義重となる。

1418 年（応永 25）今川貞世（了俊）高天神城を築く

1420 年（応永 27）今川貞世 山名郡堀越の海蔵寺で死亡。

1441 年（嘉吉元）将軍足利義教、赤松満祐に誘殺される。

1461 年（寛正 2）遠江守護斯波義敏、古河公方足利成氏討伐命令に叛き、甲斐常治を攻め、幕府より追放、遠江守護に渋川義廉を命ず。

1467 年（応仁元）応仁の乱起こる

7 月 東軍今川（堀越）貞延軍と西軍横地軍が佐夜中山を中心に合戦。

今川貞延敗れて、池下鞍骨池で自害（没年諸説あり）海老名に多数五輪塔あり。



牛頭村の庄屋・山崎彦右衛門が祠を建てて祀る。

1475 年（文明 7）堀越貞延軍と勝間田・横地氏の連合軍と戦闘。

貞延、牛頭村の庄屋・山崎彦右衛門宅露営、後自害。➡ 祠を建てて祀る。

1473 年（文明 5）今川義忠、足利義政より掛川荘の代官職を預る

この頃、朝比奈備中守、掛川（旧）城の築城を始める（今川義忠の命）

1475 年（文明 7）この頃、今川の一族堀越陸奥守（瀬名貞延）は斯波氏配下の横地氏、勝間田氏と戦い、佐夜の中山（山口とも）で討死（牛頭鞍骨池伝説の堀越入道は瀬名貞延）（宗長手記より）

1476 年（文明 8）今川義忠は横地氏、勝間田氏を討ち、自身も塩買坂で討死

1477 年（文明 9）斯波氏家臣甲斐敏光、遠江守護代となり赴任

1492 年（明応 1）長福寺、北条早雲乱入の時、兵火にかかる

1494 年（明応 3）北条早雲遠江に侵入、長福寺・円通院兵火に掛かる。

1496 年（明応 5）河合宗忠、反今川勢により松葉城で倒れる。

1508 年（永正 5）このころ、朝比奈泰濃、懸川古城を築く。（永正 2 とも諸説あり）

1510 年（永正 7）9 月 慶雲寺開かれる。開山周孝和尚、開基伊達縫殿之助

(5) 資料からわかる当時の状況

出典：静岡縣小笠郡誌（復刻）

応仁元年（1467）7月（將軍足利義政が女子ばかりだったため、その弟義視を養子にむかえた）とたん、その妻日野富子が男子を出産、ところが、義政は、日頃夫婦仲が悪いこともあって嫡子義尚に一向に関心を示さず、富子にとっていつ將軍職が義視に渡されるか気が気ではなかった。そこで彼女は、兄日野勝光に相談し、義視の後見人は細川勝元だから、それに対立する山名宗全をたより、義視將軍継嗣阻止をはかる。家臣、諸国の武将たちは、自然に義視一勝元派と義尚一宗全派にわかれて二つに大きく対立する勢力を形成する。そして応仁元年（1467）7月、細川氏と山名氏より京へ召集された全国の軍勢は、「応仁の乱」といわれる戦闘の火ぶたをきる。— 略 —

東軍の大將・細川勝元は、西軍の横地軍の強さを知っており、その力を分散させるため、東軍の今川義忠に千の兵を集めさせ、それを今川陸奥守貞延に与えて横地城攻撃を意図する。これをいち早く察知した横地軍は、堀田城、富田城に布陣、高田が原や一本松砦に伏兵を配し、東海道小夜の中山西入口にあたる佐野郡影森や海老名、城飼郡公文名、沢田とそれをむかえうち、先の山地戦訓練が役立って今川軍を全滅させる。大將今川貞延は、西へ逃れるが、横地軍に佐野郡牛頭で追いつかれ、首を切られて胴体はその池（鞍骨池という）へ投げ込まれる。その他の將兵は、城飼郡公文名永宝寺、佐野郡海老名三か所（加藤英明、戸塚幸太郎、榛葉太郎宅裏山）に戦死者を供養した多数の宝篋印塔、一石五輪塔があり、この戦いの凄さを無言のうちに語る。

(6) 海老名の五輪塔及び池下の鞍骨池関連文書

掛川誌に云ふ、堀越入道が墓は庄屋山崎彦左衛門が門前にあり、古へは五輪塔なりしがいつか石地蔵を造りて古色を失へり、池を鞍橋と云ひ坂を鞍壺と云ふ皆古驛路なり、堀越入道其名を傳へず云々。

鞍骨池 東山口村逆川に在り、傳へ云ふ、往古堀越入道敵に迫られ此池を過ぎ鞍を取り池中に投げ遁るゝを得、因て其池を鞍骨池と呼び倣せりと、掛川誌には鞍橋池と云ふ、昔堀越入道此池塘にて自盡せしとき其鞍橋を此池塘に埋めたる故名づくとあり、説少しく異れり。

東山口歴史より

久延寺に隣接せる所に明治天皇御東征の際小憩の跡あり 是より西駅路の西方を佐野山と称其南面は山広く古戦場と云その鎧塚は建武二年北条高時の余類名越太郎邦時兵を起して京に攻め上らんとし小夜の中山に於て今川式部大輔頼国に討る 又享徳五年今川義忠の一族堀越陸奥守貞延は佐夜の山口に於て横地勝田の為に討れ共に戦死するもの数輩あり されば鎧塚は名越太郎の死骸を埋めたる所ならん 今川頼国名越太郎邦時を討て初めて本州に於て大きい功を立てたれば塚を築いて基標とせしものなるべし … 略 …

これより東南は杉櫨の大深林なり 北側は生塚と云ふ山にして未は富田の火剣神社に一方は名利久延寺に至る往古の東海道にして峯つたいに行けば途中 中山峠を見越して栗ヶ岳を望む此の風景たるや雄大なる心地ぞする 生塚は近頃開拓されて大茶園となり久延寺前

より自動車の便あり 旧跡七郎太夫の屋敷を見て菊川四郡橋に出づ(この附近より以西を旧山口と題し別に記録する) 旧駅路の南側は佐野山と称し北条の余族名越太郎邦時が今川頼国に討たれた遺跡鎧塚あり 文明六年(1474)堀越六郎貞延は横地勝間田に叛られたる古戦場もあり 貞延は西にのがれて池下の鞍骨池畔に自刃せり 此の二役により此の附近に五輪の塔散在す 五輪の塔は村内通して海老名に最も多し その所在を尋ねれば佐野山下一帯荒神森 堂の段 尾光の谷(加藤清四郎氏附近) 〇い堂奄等にして中には九輪の塔の破片をも見る

掛川誌稿より

駅路南側林中ニアリ、来由傳ラス、按ニ建武二年八月、北條高時ノ餘類、名越太郎邦時、兵ヲ起シテ京ニ攻上ントシテ、小夜ノ中山ニ於テ今川式部大輔頼国ニ討ル、又享徳五年、今川義忠ノ一族、堀越陸奥守貞延、小夜ノ山口ニ於テ横地勝田ノ為ニ討レ、共ニ戦死スルモノ数輩アリ、サレトモ鎧塚ハ名越太郎カ死骸ヲ埋ミタル所ナラン、今川頼国、名越邦時ヲ討テ、初テ本州ニ於テ大ニ功ヲ立タレハ、塚ヲ築テ其標トセシモノナルヘシ(『掛川誌稿』) ※享徳五年…1456年

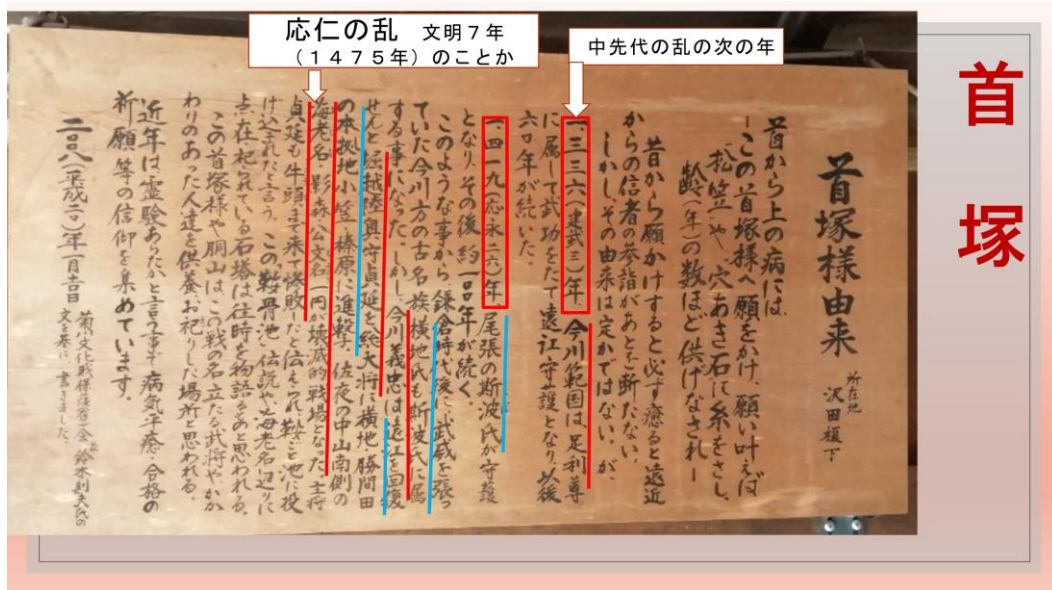
堀越入道を祀る祠に掲げられた看板の紹介文(東山口牛頭 東山口地区地域づくり部作成)

堀越入道は、今川陸奥守貞延であるとされ、堀越の名前の由来は貞延の先祖が袋井市堀越に住んでいた事からきています。貞延は今川氏に属し、見附端城(磐田市)の城主でありましたが、旧領地回復のため総大将として遠江に侵攻しました。しかし、文明七年(一四七五)「牢人蜂起して佐夜の山口にして陸奥守堀越不慮に討死(宗長手記)」します。牢人には横地勝間田軍の兵も入っていました。「宗長手記」では文明七年小夜山口の戦いで不意に襲われ討死となっていますが、文明六年という説もあります。

(7) 関連する遺跡 所在地 菊川沢田榎下



首塚



首塚

首塚様由来の看板 所在地 沢田榎下

首から上の病にはこの首塚様へ願をかけ、願い叶えば、松笠や、穴あき石に糸をさし、
 齡（年）の数ほど供げなされ 略

1336（建武2）年、今川範国は、足利尊氏に属して武功をたて、遠江守護となり、以後
 60年が続いた。

1419（応永26）年、尾張の斯波氏が守護となり、その後約100年が続く。

このような事から、鎌倉時代後に、武威を張っていた今川方の古名族横地氏も斯波氏
 に属する事になった。しかし、今川義忠は遠江を回復せんと堀越陸奥守貞延を総大将
 に、横地・勝間田の本拠地小笠・榛原に進撃。佐夜の中山南側の海老名・影森・公文名
 一円が壊滅的戦場となった。主将貞延も牛頭まで来て惨敗したと伝えられ、鞍ごと池に
 投げ込まれたと言う。この鞍骨池伝説や海老名辺りに点在、祀られている石塔は往時を
 物語るものと思われる。

この首塚や胴山はこの戦の名立たる武将や、かわりのあった人達を供養、お祀りした
 場所とおもわれる。 後略

滝の谷 永宝寺 五輪塔

(公文名)

「佐夜の中山南側の海老名・影森・公文名一円が壊滅的戦場となった」



終わりに

応仁の乱は中央だけでなく地方にまで大きな爪痕を残しました。今回、東山口に残っている歴史の痕跡から、当時の資料を調べ、それを基に、当時の歴史を辿ってみました。そして、改めて中央の争いが地方(東山口)にまで影響を与えていたことを深く考えさせられました。そして、この事実を私たちの地区民、更には多くの皆さんにも知って頂きたいと思いこのレポートを纏めました。

参考

今川義忠墓 南山村高橋曹洞宗正林寺境内にあり。

今川家々譜に云ふ、義忠は範忠の嫡男也、幼名彦五郎後従五位下に叙し上總介に任ず、又治部大輔に任ず、今川家略記に云ふ、文明七年春遠州の住人横地某勝間田某謀叛す、義忠進發して是を攻む城陥る、依て義忠歸陣其夜鹽買坂に至る、一揆不意に起り味方狼狽して従士多く爰に死す、義忠流矢に中り重創終に卒す歳廿八歳、時に文明七年四月六日也云々、
鎧塚 佐夜中山にあり、

※ 掛川誌に云ふ、驛路南側林中にあり、来由傳はらず、按ずるに建武二年八月北條高時の餘類名越太郎邦時兵を起して京に上らんとして小夜中山に於て今川式部大輔頼國に討たる、又享徳五年今川義忠の一族堀越陸奥守定延佐夜中山に於て横地・勝間田の為に討たる、共に戦死するもの數輩あり、されども鎧塚は名越太郎が死骸を埋めたる所ならん、今川頼國名越邦時を討て初て本州に於て大に功を立たれば塚を築て其標とせしものなるべし。

※享徳五年…1456年



鎧塚

